



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

Gender Studies

21世紀型

文理融合

リベラルアーツ

2010

あなたが、

変わる

あなたから、

変わる

ジェンダー系





やっぱり Gender Studies しなきゃ! Because...

今こそ！ジェンダー視点で物事を考えなければならないときです。
 右の表を見て下さい。平均寿命と識字率などに1人当たりGDP（国内総生産）を反映させたHDIでは、日本は世界で10位です。それに男女別数値を反映させたGDIでは14位。しかし女性がどのくらい社会のなかで活躍し、意思決定にも参加しているのかを見るGEMでは、なんと57位。まったくお話しにならない状況で、先進諸国のなかではきわめて低い数値です。
 どうしてでしょう？ シモーヌ・ド・ボーヴォワールが「人は女に生まれえない、女になる」と語ったように、いまだに社会の仕組みや人の心のなかに、巧妙に性の非対称性が刻まれていて、それが女性の可能性を阻んでいるからです。
 社会や文化によって形づくられる性別を「ジェンダー」と呼び、人々を「女」というジェンダーや「男」というジェンダーに誘導していく仕組みを研究するのがジェンダー・スタディーズです。

「人は女に生まれえない、女になる」

シモーヌ・ド・ボーヴォワール
『第二の性』(1949)



どんなメニューがあるの

LAのジェンダー系では、4つのカテゴリーを用意しました。「政治経済と人間」(Politico-Economics)、「文化メディア」(Culture/Media)、「グローバル化」(Globalization)、「テクノロジー」(Technology)です。
 低出生率・高齢社会の到来を迎えた日本ではどんなジェンダー政策・政治が必要なのか、日々触れている物語や図像は、どのように人々を文化的に洗脳しているのか、人やモノやカネが国境を越えて移動しているグローバル化の時代のジェンダー・イシューとは何か、テクノロジーはどんな風にジェンダー体制に介入しているのか・・・等々、今を生きるジェンダー学を学びましょう。

人間開発報告書2009

HDI:人間開発指数(平均寿命、識字率、教育程度、一人当たりGDP)
GDI:ジェンダー開発指数(HDIに男女別数値を反映させたもの)
GEM:ジェンダー・エンパワメント指数
 国会議員・管理職・専門職の男女比など、政治的・経済的・意思決定力の男女差を反映

順位	HDI	GDI	GEM
1	ノルウェー	オーストラリア	スウェーデン
2	オーストラリア	ノルウェー	ノルウェー
3	アイスランド	アイスランド	フィンランド
4	カナダ	カナダ	デンマーク
5	アイルランド	スウェーデン	オランダ
6	オランダ	フランス	ベルギー
7	スウェーデン	オランダ	オーストラリア
8	フランス	フィンランド	アイスランド
9	スイス	スペイン	ドイツ
10	日本	アイルランド	ニュージーランド
11	ルクセンブルク	ベルギー	スペイン
12	フィンランド	デンマーク	カナダ
13	アメリカ	スイス	スイス
14	オーストリア	日本	トリニダード・トバゴ
15	スペイン	イタリア	イギリス
16	デンマーク	ルクセンブルク	シンガポール
17	ベルギー	イギリス	フランス
18	イタリア	ニュージーランド	アメリカ
19	リヒテンシュタイン	アメリカ	ポルトガル
20	ニュージーランド	ドイツ	オーストリア
21	イギリス	ギリシャ	イタリア
22	ドイツ	香港(中国)	アイルランド
23	シンガポール	オーストリア	イスラエル
24	香港(中国)	スロベニア	アルゼンチン
25	ギリシャ	韓国	アラブ首長国連邦
26	韓国	イスラエル	南アフリカ
27	イスラエル	キプロス	コスタリカ
28	アンドラ	ポルトガル	ギリシャ
29	スロベニア	ブルネイ	キューバ
30	ブルネイ	バングラデシュ	エストニア
31	クウェート	チェコ共和国	チェコ共和国
32	キプロス	マルタ	スロバキア
33	カタール	パーレーン	ラトビア
34	ポルトガル	クウェート	スロベニア
35	アラブ首長国連邦	カタール	マケドニア
36	チェコ	エストニア	ペルー
37	バングラデシュ	ハンガリー	バングラデシュ
38	マルタ	アラブ首長国連邦	ポーランド
39	パーレーン	ポーランド	メキシコ
40	エストニア	スロバキア	リトアニア
41	ポーランド	チリ	エクアドル
42	スロバキア	リスアニア	セルビア
43	ハンガリー	クロアチア	ナミビア
44	チリ	ラトビア	クロアチア
45	クロアチア	ウルグアイ	ブルガリア
46	リトアニア	アルゼンチン	パーレーン
47	アンティグア・バーブーダ	コスタリカ	パナマ
48	ラトビア	メキシコ	キプロス
49	アルゼンチン	キューバ	ウガンダ
50	ウルグアイ	ブルガリア	レソト
51			
52			
53			
54			
55			
56			
57			日本
58			
59			
60			
	(182カ国中)	(155カ国中)	(109カ国中)



Politico-Economics (政治経済と人間)

市場経済の進展がジェンダーにまつわってケアや福祉や消費や家庭経済をどのように変容させているのか、また家庭や社会のなかの暴力がジェンダーの視点でどう法制化されているかを考えます。

科目名	担当教員	開講年度
ジェンダー 1 政策とジェンダー	未定	奇数年
ジェンダー 2 ケア・エコノミーとジェンダー	文教育学部・ジェンダー研究センター 足立 真理子	偶数年
ジェンダー 8 政治とジェンダー	生活科学部・ジェンダー研究センター 申 瑛榮	偶数年



Culture/Media (文化メディア)

映画や美術や文学やマンガなどのポップカルチャーが、ジェンダーやセクシュアリティをどう描いているのかを考えます。『タイタニック』や『冬ソナ』で泣いているあなたは誰？

科目名	担当教員	開講年度
ジェンダー 3 映画とセクシュアリティ	文教育学部:言語文化学科 英語圏言語文化 竹村 和子	偶数年
ジェンダー 4 アートとジェンダー	文教育学部:人文科学科 美術史 天野 知香	奇数年



Globalization (グローバル化)

グローバル化はどのように国境を超えてジェンダーの仕組みを変えるのか、またローカルな文化(たとえばイスラムのヴェール)はどのように国境を越えて政治的意味をもつことになるかを考えます。

科目名	担当教員	開講年度
ジェンダー 5 宗教文化とジェンダー	文教育学部:グローバル文化学環 三浦 徹	偶数年
ジェンダー 6 グローバル化/ローカル性とジェンダー	文教育学部:人間社会科学科 教育科学 棚橋 訓	奇数年



Technology (テクノロジー)

生殖科学はわたしたちに何をもたらすのでしょうか、また従来の科学の枠組にはどんな前提があったのでしょうか。そして一見、無関係に見えるインターネットとジェンダーの関係などを考えます。

科目名	担当教員	開講年度
ジェンダー 7 テクノサイエンスとジェンダー	生活科学部・ジェンダー研究センター 館 かおる	奇数年
ジェンダー 9 生殖テクノロジーとジェンダー	生活科学部・ジェンダー研究センター 柘植 あづみ	偶数年



Seminars (演習)

4つの演習科目は、4つの各カテゴリーに呼応しています。

科目名	担当教員	開講年度
ジェンダー 21 福祉・エコノミーとジェンダー	生活科学部:人間生活学科 齋藤 暁子	毎年
ジェンダー 22 文化メディアとジェンダー	文教育学部:言語文化学科 菅 聡子/内田 正子	毎年
ジェンダー 23 開発・社会変動とジェンダー	文教育学部:グローバル文化学環 石塚 道子/熊谷 圭知	毎年
ジェンダー 24 テクノロジーとジェンダー	生活科学部・ジェンダー研究センター 高橋 さきの	毎年

日本一充実したリソース

お茶の水女子大学は、ジェンダー研究のリソースが充実しています。日本でもっとも恵まれた環境で学べます。

このLA・ジェンダー系の母体は全学共通科目コアクラスター・ジェンダー系(2002～2007)で、LA自体がコアクラスターをモデルにしています。

2003年から2007年には21世紀COEで、日本を先導するジェンダー研究を実施してきました。そのときに招いた世界的な研究者の言葉のほんの一部を、「言葉たち@お茶大」として、このパンフレットのなかに掲載しています。ぜひ読んでみてくださいね。

そしてジェンダー研究センター。女性文化資料館(1975)から数えると35年余の長きにわたって、女性をめぐるさまざまな研究のフロントラインに立ってきました。ちなみに1975年は世界的にも重要な年で、初の女性会議がメキシコシティで開かれました。

日本で、世界で、羽ばたく国際市民になろう

ジェンダー視点の導入によって、在学中の専門分野に新しい視野を吹き込み、卒業後の進路においては、新しい知の担い手としてイキイキと活躍する国際人になりましょう!

「学外リソース」「国際リソース」を少しだけ挙げておきました。

■学外リソース

内閣府男女共同参画局/国立社会保障・人口問題研究所
国際協力機構(JICA)
国際協力銀行(JBIC)
又エック国立女性教育会館/東京ウィメンズプラザ
(財団法人)アジア女性交流・研究フォーラム
(財団法人)女性と仕事の未来館…等

■国際リソース

Division for the Advancement of Women, UN
Gender Equality, International Labor Organization
United Nations International Research & Training for the Advancement of Women
Gender Equality, UN Children's Fund (UNICEF)
Women, Office of the UN High Commissioner for Human Rights
Gender and Development, Asian Development Bank
Gender, World Bank, etc.

Gender 2

『ケア・エコノミーとジェンダー』 Care Economy & Gender

●——— 足立 眞理子(文教育学部・ジェンダー研究センター)

目的

ケア・エコノミーとは、公的および私的領域の双方で行われる家事・育児・高齢者介護などの広義のケア・ワークに関わる経済行為全体を総称するものです。本講座



では、グローバル化の進展の中で、ケア・エコノミーの中で重要性が増している、「グローバルなケアの連鎖」と呼ばれている現象について考えていきたいと思ひます。

「グローバルなケアの連鎖」とは、先進諸国でますます需要の高まっているケア・ワークを、途上諸国出身の移住女性たちが担っており、その移住女性たちの子供の世話を母国で行う女性がいるという、女性によって国際的に分業されるケア・ワークの連鎖という現象について、A・ホックシールドが名づけたものです。ここでは外国籍ケア・ワーカー、特に家庭の中で仕事をしている移住家事労働者と世帯組織に焦点を当てながら、現代のアジアにおけるグローバル化とジェンダーの問題を考えていきます。

アピール

「グローバルなケアの連鎖」とは何かを考察することにより、現代世界のグローバル化とジェンダーが如何に深く結びついているかを理解し、同時に、これからの私たち自身の生活世界の変容とその意味を読み解いていくことができるでしょう。

キーワード / Key Words

ケア・エコノミー、グローバルなケアの連鎖、移住女性、再生産領域のグローバル化、世帯保持

care economy, global care chains, immigrant women, globalization of reproductive sphere, householding

Purpose

The "care economy" refers to all economic activity regarding care work, such as housekeeping, child-rearing and nursing care for the elderly and others, performed in both public and private domains. In this lecture I would like to consider the "global care chain" (Hochschild 2000) phenomenon with the aim of understanding the problem of globalization and gender in Asia, focusing on migrant housekeeper employees and the organization of the household.

出典 ■ *Feminist Economics*, Routledge(2009)

Gender 8

『政治とジェンダー』 Politics & Gender

●——— 申 瑛(生活科学部・ジェンダー研究センター)

目的

この授業では現代日本の政治制度や男女共同参画をめぐる様々な政策をジェンダー視点から検討します。それによって日本の政治過程や制度に関する基礎的知識を獲得するとともに、私たちの日常生活に及ぼす政治の影響を理解し、さらにその影響を「女性市民」という私たちの立場から分析する能力を培うことを目的とします。

アピール

今まで日本の女子大学では「政治」をテーマにする授業が多くありませんでした。しかし、女性がこれから日本、そしてグローバル社会で活躍するためには、私たちが一構成員である政治共同体の性質や機能を理解することが極めて重要です。また、日本の男女共同参画社会を実現させるためには、これからもっと女性が政治や社会に参画する必要があります。そのために、政治をほど遠い抽象的な問題ではなく、身近なものとして考える機会が必要です。この目的を達成するために、お茶の水女子大学でも数少ない政治学の基礎科目の一つとして、とりわけ、女性の視点を中心としたジェンダー分析を手法とした授業を行って行きます。授業の形式は一方的な講義ではなく、様々な資料、授業のホームページ、視聴覚資料をも積極的に使って

討論しながら、学生参加型で楽しく進めます。

キーワード / Key Words

国家、ガバナンス、ジェンダー主流化、ジェンダー平等、法政策、政治制度

politics, governance, gender mainstreaming, gender equality, public policies, political system

Purpose

Introduction of the political system, institutions, and public policies, and their relations to gender equality in Japan.



出典 ■ 『男女共同参画社会をつくる』日本放送出版協会(2002)
『わかりやすい男女共同参画社会基本法』有斐閣(2001)
Mainstreaming Gender, Democratizing the State, Transaction Publishers(2003)



『福祉・エコノミーとジェンダー』 Welfare/Economy & Gender

齋藤 暁子 (生活科学部:人間生活学科)

目的

本演習では、子育て、高齢者介護、障がい者への介助など、「ケア」の問題をジェンダー視点から考えることを中心的な課題とします。従来、「家族」という私領域でアンパイドワークとして担われてきたケアが、どのように「社会化」され、その過程でどのような問題が生じているのか、文献講読と討論を通して理解を深めたいと考えています。

アピール

今日の福祉問題を語る上で欠かせないキーワードである「ケア」に焦点を当てた、文献講読を中心とする演習です。子育て、高齢者介護、障がい者への生活支援などの「ケア」のあり方は、公私の責任範囲の線引きをめぐる、またケア労働の性質とその担い手をめぐって、さまざまな政治的争点を生んできました。すなわち、従来、家族という私的な場で、主として女性によるアンパイドワークにより処理されてきたこれらのケアニーズは、今日では社会的な支援なしには充たすことができなくなり、「子育ての社会化」「介護の社会化」などの理念にもとづく政策的対応が迫られています。しかし、ケアの「社会化」はどこまで進んだのか、どこまで進めるべきか、そのための具体的な理念と政策はどのようであるべきかなどの諸点については、なお十

分な議論は尽くされていません。21世紀における女性の生き方とも関連づけつつ、これらの問題をともに考えていきましょう。



なお、演習の進行は学生主体であることを心がけ、文献講読に際しては、レポーター、コメンテーター、司会の役割をすべて学生に担ってもらいます。そのために必要な「知の技法」をしっかりとして習得できるよう、講義形式の時間も設けたいと思います。

キーワード / Key Words

ケア、アンパイドワーク、家族、ジェンダー視点、福祉サービス、ケアの責任分有

care, unpaid work, family, gender perspective, welfare services, responsibility sharing of care

Purpose

The aim of this class is to discuss the ideas and policies of “care” from the viewpoint of responsibility sharing between families and welfare services based on gender perspectives.

言葉たち@お茶大①

J・バトラー 衝撃の来日、お茶大講演

わたし自身の思考は、「新しいジェンダー・ポリティクス」の影響を受けてきました。「新しいジェンダー・ポリティクス」とは、トランスジェンダーやトランスセクシュアリティやインターセックス、およびこれらとフェミニズム理論やクィア理論とのあいだの複雑な関係に関わっている多くの運動が組み合わさったもの



です。[中略] それぞれの動きは、互いのあいだの関係性によって規定され、彼我を隔てたり繋げたりしている境界線をつねに知ろうとしているのです。それらは、それらよりも大きいネットワークを構成しており、そこでは、互いが互いを読み合い、読み合うことを拒絶し、また引用し合い、そして他がなした洞察のうえに己を打ち立てているのです。もしもこれがセクシュアル・ポリティクスの地勢であるなら、それはアイデンティティ主義的なものではなく、異議申し立てに満ちたもの、関係的なものです。それは力動的で内的葛藤にみち、終わりなきもの、ちょうど民主主義のプロセスがそうであるようなものなのです。

ジュディス・バトラー 講演「ジェンダーをほくく」
2006.1.14お茶の水女子大学 翻訳:竹村 和子(お茶の水女子大学)

ジュディス・バトラー ●カリフォルニア大学バークリー校、修辭学・比較文学科教授。1990年出版の『ジェンダー・トラブル』以降、フェミニズム研究、セクシュアリティ研究を先導してきたのみならず、人文科学・社会科学を始めとする学問分野や、市民運動や政治にも大きな影響を与え続けている。初来日し、お茶大で講演したときは、雨天にもかかわらず、福音堂の1200を超える座席がすべて埋まる盛況で、一大イベントの様相を呈していた。

言葉たち@お茶大②

国連で活動して

今日、人道問題に関する重要な研究は、沈黙や沈黙を強いること、およびそれらと権力の構造の関係について問題にしている。一方、精力的な政治的組織編成



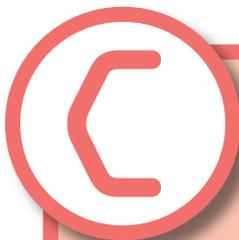
が基盤とするのは、同様に、沈黙を強いられている人々の存在であり、または彼/彼女らのためという大義名分である。しかしながらこれらの批評理論家と人道支援の実践者たちのあいだにはつねに大きなギャップがあるように思われる。この理論と実践のギャップに、残虐行為からの生還者の声が介入しえと私は提案したい。本日の私の講演は、沈黙させられてきた人々の声、大量虐待からの生還者が体験を語る「日常」の声を、歴史と恐怖を忘却して沈黙

するという現実政治の沈黙に対するものとして、また理論と私が人道の政治学と呼ぶところの実践のギャップに対して提起するものである。

アン・キューブリエ 発表「不可能なることに正義を——ジェンダー・証言・人道」

2004.12.11お茶の水女子大学 翻訳:戸谷 陽子(お茶の水女子大学)

アン・キューブリエ ●国連人道調整事務所(OCHA: Office for the Coordination of Humanitarian Affairs)の職員。トランス・ナショナル・フェミニズムの文化研究、および戦争犯罪や人権侵害の犠牲となった人々の証言、人権、倫理問題を研究。COE『ジェンダー研究のフロンティア』第1回シンポジウムのために初来日。現在はカイロで勤務。



文化メディア Culture/Media

Gender 3

『映画とセクシュアリティ』 Film & Sexuality

● 竹村 和子 (文教育学部: 言語文化学科 英語圏言語文化学)

目的

授業では、とくにセクシュアリティに焦点を当てて、ハリウッド映画、独立系映画、日本映画を読み解いていきます。手がかりにするのは、女同士の関係の描かれ方です。いかに映画が規範的なセクシュアリティを(再)生産し強化してきたか、またあるときはそれを転覆させてきたかを論じます。

アピール

20世紀に登場した映画は“motion pictures”(動く写真)とされているように、それを見ている観客に、俳優の動作や服装や表情を、「見本」としてヴィジュアルに示して、規範的なジェンダーやセクシュアリティを生産し流布することに貢献してきました。とくにハリウッドでは、自主規制によって同性愛の表現が厳格に制限されたので、同性愛表象は退けられ、異性愛のラブロマンスが20世紀を通じて「美しく」語られることになったのです。どのようにハリウッド主流映画が観客の視線を誘導してきたか、そしてどのような形の欲望を生産してきたかを検証します。しかし同時にハリウッドは、巧妙に非異性愛の表象も忍ばせています。また主流映画に対抗して製作された自主映画も、興味深い視角を与えてくれます。授業ではセクシュアリティの映

像表象を一面的に捉えず、再生産と攪乱の複雑な軌跡を見ていきます。扱うのは主にアメリカの主流映画と自主映画ですが、日本映画にも言及していきたいと思います。理論的枠組みとして、フェミニズム理論(とくにクィア理論)とポストコロニアル批評の枠組みを使いますので、他の文化研究や社会分析にも役立つでしょう。

キーワード/ Key Words

映像表象、セクシュアリティ、欲望、視線、クィア理論、ポストコロニアリズム film representation, sexuality, desire, gaze, queer theory, postcolonialism, lesbianism

Purpose

This course explores the contribution of Hollywood mainstream movies, independent films and Japanese films both to the (re-)production of normative heterosexuality and its subversion, focusing on female same-sex relationship described in those films.

出典 ■『セルロイド・クローゼット』パンドラ(1995)



Gender 4

『アートとジェンダー』 Arts & Gender

● 天野 知香 (文教育学部: 人文科学科 美術史)

目的

アートとジェンダーでは、視覚表象とジェンダーの関わりを扱います。美術作品や大衆イメージなど、視覚的な表象は感覚を通して欲望に直接訴える側面が強い分、ジェンダーとの関わりも根深いと言えます。本講義では特に、大衆イメージ以上に制度や歴史、社会と複雑な関係を持つ美術作品を中心に考えます。

アピール

いわゆる美術作品は一見、愛好者や専門家だけの限られた領域と思われがちですが、大衆イメージを含めたイメージの基本的な構造を歴史的に作り上げてきた領域であるだけに、ジェンダーと視覚表象の問題を扱うには最適な領域です。「巨匠」、「傑作」、「創造」、「天才」といった今日でもマスメディアや教育の現場で良く耳にする概念は、実際にはジェンダーを含めた社会の主流の考え方をそれと気づかぬうちに感覚的に人々に浸透させるメディアとしての視覚芸術の役割を覆い隠し、社会と切り離された聖なる領域として人々に「鑑賞」や「感動」を促す枠組みを作り上げています。こうした枠組みや制度のあり方を歴史的に捉え直しながら、イメージやその生産と受容のあり方を批判的に検討することは本講義の目的の一つで

す。「感動」すべきもの、「美」をあがめるべきものとされる従来の縛りを解き放つことで、あなた自身がイメージを前にして感じていた欲望や抑圧を明らかにし、今の社会に生きるあなたがどのような立場でそれを捉えるか、自ら考えることができるでしょう。他方で美術作品はそれ自体が美術の制度や社会の主流の考え方に対する批判的な問い直しでもあり得ます。とりわけ1970年代以降のフェミニズム・アートの展開をたどることで、既存のジェンダー構造に対する視覚表象自体の批判的な力を実感することができます。

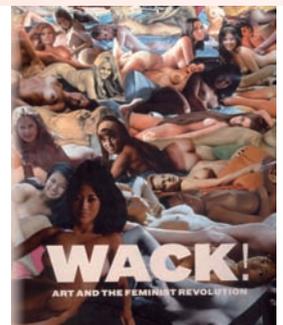
キーワード/ Key Words

美術、美術史、視覚表象、ジェンダー、フェミニズム美術史 fine art, art history, visual representation, gender, feminism art history

Purpose

Criticizing the discourse of traditional Art History and reexamining the institutions, the history and the interpretations of visual arts, we analyze various visual art works from the viewpoint of feminist art history.

出典 ■WACK! exh. cat., The MIT Press(2007)





『文化メディアとジェンダー』 Culture, Media & Gender

Seminars

菅 聡子 (文教育学部: 言語文化学科 日本語・日本文学)

目的

現代社会にあふれるさまざまな情報、とくに文化情報について、どのような形でジェンダーバイアスが仕掛けられているのか、それを見極める力を養い、メディア・リテラシーの養成の第一段階とします。その考察を通して、自分自身の生/性についてさまざまな面からとらえなおし、新たな自分の可能性と出会うことを目的とします。

アピール

私たちは、社会の関係性のなかで生きています。しかし、その社会はどのような言葉で成り立っているのでしょうか。その社会の言葉を代表するものが、メディアの言葉です。

日常的に、私たちは複雑なメディア状況のなかに置かれています。現代日本において、それらと無関係に生きることはできません。とするなら、多様なメディアが潜ませているメッセージ、とくに、女性の生/性に深く関わるそれを読み解く力を身につけることは、私たち自身の明日のために必要不可欠です。この授業では、私たちがつねに親しんでいる文化メディア—アニメ、コミック、ライトノベル、女性雑誌、映画、TVドラマ、Jポップの歌詞、小説など—をひろくとりあげ、その物語(文脈)のなかに潜んでいるジェンダー・イデオロギーを見出し、分析し、考察する力を養うことをめざしています。無意識のうちに私たちが受容しているメディアの言葉のなかに、いったい、どのような物語が隠れているのでしょうか。この考察を通し、そのような物語に抗い、自らの生を確立していく第一歩となることを願っています。

キーワード/ Key Words

メディア・リテラシー、サブカルチャー、物語、可視化、消費、欲望
media literacy, subculture, narrative, visualization, consumption, desire

Purpose

The purpose of this class is to learn how to recognize the strategies of gender ideology hidden in media contexts and to consider how to live freely amidst such a tangled web of gender ideology which tries to dominate women.



目的

幾度となく映画化されて誰もがよく知っており、また数々のホラー映画や小説を生み出す母胎ともなってきたMary Shelley (1797-1851) の小説*Frankenstein* (1818)。この演習では、人の心をとらえるその特質を、原文の読解により明らかにしようと試みます。

アピール

Frankenstein は、社会や文化における革命の展望とジェンダー意識の変革の機運を書き込みながら、同時にそれとは一見矛盾する捨てられた者の感覚—被差別感、孤立感、絶望など—に鮮明な形象化を与えた作品で、強烈なアンビヴァレンスを含んでいます。LAジェンダーの演習を求められたとき、専門の範囲で迷わずこの作品を選びました。文学批評への入門として興味深いばかりでなく、さらに研究を進めるための手がかりとしても役に立つのではないかと思います。

授業では映像も使いますが、中心はやはり小説をじっくり読むことに置きたいと考えています。古典を研究素材に還元せず、多角的な分析を通じて、文学の提供する喜び、読むことの楽しさを味わえる授業—つまり文化メディアの誘惑を体感する授業—にしたいのです。読解の難しいところには手助けもできますので、受講者の積極的な参加と挑発的な読みを期待しています。

キーワード/ Key Words

ゴシック小説、科学、境界侵犯、モンスター性、女性性、アブジェクション
Gothic fiction, science, transgression, monstrosity, femininity, abjection

Purpose

This seminar will conduct a close reading of Mary Shelley's *Frankenstein* and try to capture its specific qualities forming an integral part of popular cultural consciousness.



言葉たち@お茶大③

真ん中の場所から

ベトナム系アメリカ人(Vietnamese-American)というようにハイフンがつくと、「完全なアメリカ人」でないような、否定的な印象を受ける。でも、アメリカ人でもベトナム人でもない、この真ん中の場所こそが、新しい何かを生み出せる空間。どちらか一方を否定することなく、その間から創造するのです。[中略] ハイフンは確かに生きにくい場所。でもつねにハイフンでつながれた複数の視点をもつことが、これからの時代、ますます求められます。[中略] たえば人種問題について何かを述べる時、私は黒人の耳でそれを聴こうとし、家族問題を論じ

るときは、レズビアンで聴いてみようかとめまします。[中略] 創造するということは、単に新しい場所に移動することにすぎない。いまの私と十年前の私は、違う場所にいるだけ。どちらがより高次か、という問題ではありません。トリン・T・ミンインタビュー 『生きにくさ』強さに変えて、『朝日新聞』1998.8.8.夕刊



トリン・T・ミンハ ● 米国カリフォルニア大学バークレー校 女性学教授。作家、詩人、批評家、映像作家、作曲家。ヴェトナム、ハノイ生まれ。『女性・ネイティヴ・他者』(1989)は、ポストコロニアリズム・フェミニズム批評の先駆けとなった。また同年に製作された映画『姓はヴェト、名はナム』はドキュメンタリー映画のナラティヴ性を追及し、客観性や言語のあり方に鮮烈な問題を提示した。客員教授としてお茶の水女子大学滞在中の調査研究をもとに、日本を素材にした映画*The Fourth Dimension*(2001)、*Night Passage*(2004)を製作。後者は宮沢賢治の『銀河鉄道之夜』が下敷きになっている。



グローバル化 Globalization

Gender 5

『宗教文化とジェンダー』 Religion & Gender

三浦 徹(文教育学部:グローバル文化学環)

目的

イスラム復興とともに、ムスリム女性の間でヴェールへの回帰が強まる一方、2001年アフガニスタン攻撃以降、欧米世界ではヴェールは「遅れた」文明のシンボルとして批判されています。イスラムとジェンダーの関係をどう理解するかは、現代のグローバルな課題となっていますが、これを、他の宗教文化と比較し、歴史的な変化に着目しながら、読み解いていきます。

アピール

イスラムでは、信徒としての男女は平等ですが、社会的には両者の役割を区別し、婚姻や教育や財産や労働の局面では異なった位置づけをしています。ヴェールをまとったムスリム女性の姿は、受動的・従属的なイメージを喚起しやすいのですが、ファッションであれ、教育や労働への意欲であれ、主体的です。歴史的にみれば、女性の君主、宗教者、文学者などの活躍があり、近代には女性教育・女性解放の運動が進展し、エジプトの1919年の独立運動や2009年のイラン大統領選挙では、ヴェールのデモが登場しました。オリエンタリズムの眼鏡をはずし、歴史史料、絵画、写真、ビデオなどからムスリム女性の実像をさぐるとともに、女性に視野を限定するのではなく、男女

分離の社会的なさまざまなあり方について(女子大学や女性専用車両をふくめ)、他の宗教文化や社会とも比較しながら考えることによって、男女の解放とはなにかというテーマに接近したいと思っています。

本授業は2005、2007年度にコアクラスター科目として開講しましたが、今回はさらにAV教材を多用して双方向的に行います。

キーワード/ Key Words

イスラム、ヴェール、家族、結婚、同性愛、オリエンタリズム
Islam, veil, family, marriage, homosexuality, Orientalism

Purpose

Our goal is to understand the relation between Islam and gender in the global era when the veiling of Muslim women has become a crucial world issue, paying attention to comparative and historical perspectives.



カイロのブティック(2006年8月撮影)

Gender 6

『グローバル化/ローカル性とジェンダー』 Globalism/Localism & Gender

棚橋 訓(文教育学部:人間社会科学科 教育科学)

目的

フィールドワーク(臨地調査)と「文化の多様性の視点」に基づいて人間現象を捉える文化人類学の基本概念・理論・方法をてがかりに、「ジェンダー—ローカル性—グローバル化」の関係を多様性の視点から考え、「われわれが生きるこの世界とは何なのか」を積極的に問うていくための基本的な「道具」を身につけることを目的とします。

アピール

本講義は文化人類学の視点と方法から、人間社会が持つ個別文化のなかにジェンダーの多様性とそのローカルなあり方を考えようとするものです。そして、そのジェンダーのローカル性は現在のグローバル化の流れのなかでどのように変容し、あるいは維持されていくのかについて考えていこうとするものです。いうなれば、人間生活の広い文脈のなかで、ジェンダーの問題を捉えて、議論していく方法を模索することが本講義のめざすものとも言えるでしょう。おそらく、受講者の方々にとって、ジェンダーとか、ましてや、文化人類学などという分野そのものが、「未知との遭遇」に等しいかと思えます。しかし、未知の沃野に敢えて踏み込むときの独特な感覚も悪くはないでしょう。文化人類学で培われてきた「文化」と「多様性」を捉える視点を使い

ながら、ジェンダーについて考えてみるという作業は、あなたがたがこれから先に様々な学習と研究を重ねるうえでの重要な思考のOSを提供してくれると思っています。この講義を切っ掛けの一つにして、積極的に学び、考えてほしいと思っています。

キーワード/ Key Words

文化、多様性、ジェンダー、ローカル性、グローバル化、生活世界
Culture(s), diversity, gender, locality, globalization, Lebenswelt

Purpose

This class offers a foundation to discuss the complex relationships of gender, locality and globalization from the viewpoint of socio-cultural anthropology.



出典 ■『人類の歴史・地球の現在』放送大学教育振興会(2007)



『開発・社会変動とジェンダー』 Development & Gender

—石塚 道子・熊谷 圭知(文教育学部:グローバル文化学環)

目的

「ジェンダーと開発」は、それまでの開発援助の実践が、男性中心だったことを反省して、1980年代以降に生まれた考え方です。この授業では、開発においてなぜ女性やジェンダーの視点が重要なのか、ローカルな社会や文化の差異と開発とジェンダーの問題はどのように両立するのか、といった課題を考えたいと思います。

アピール

私の専門は、社会地理学とパプアニューギニアの地域研究です。パプアニューギニアでは、農村でも都市でも、女性が生業の中心を担い、家族の生活を支えています。しかし、政治や公の場は、男性が支配しています。一方で、第三世界の開発政策や実践に女性やジェンダーの視点が組み込まれてこなかったことを指摘し、改善しようとする「ジェンダーと開発」の考え方は、地域や文化の固有性を重視する地理学や地域研究の考え方と異なる部分もあります。普遍性と多様性、グローバルとローカルという異なる要素をどう折り合わせればよいのか、また日本の私たちが遠い第三世界のことを考えることにどんな意味があるのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

キーワード / Key Words

ジェンダー、開発、女性、男性、ローカル、グローバル
gender, development, women, men, local, global

Purpose

In this course, we review major perspectives in Gender and Development (GAD) and scrutinize them with local sensitivities.



ポートモレスビーの街路で取締りの目を気にしながら商売する女性たち

言葉たち@お茶大④

G・スピヴァクとの対話

脱構築についての質問ですが、わたしはつねに脱構築を試しています。もしもそれを内面化していれば、理論を、応用する道具としてではなく、ちょうど想像力の訓練のように、気づかないうちにその人のなかに入り込んでいくものとして教



えることができるでしょう。これこそ、内面化されているということです。[中略] わたしの母はわたしが書いたものをすべて読みました。けっして難しいと言って文句を言いませんでした。『グラマトロジーについて』を英訳したとき、彼女に一冊贈りました。その序文を読んで、彼女はわたしに「ガヤトリ、この考えには仏教の〈空〉の教えに共通するものがあるね」と言いましたが、彼女はまったく正しかったのです。さらに彼女はベンガル語でこう尋ねました。「でもガヤトリ、それではおまえは、これとおまえの共産主義とをどう折り合いをつけるのかい」。この話をデリダにしたら、デリダはわたしに「ガヤトリ、君はお母さんに耳を傾ける必要があるね」と言いました。そう、ここにあなたへの答えがあるのです!

2007.7.14お茶の水女子大学 翻訳:竹村 和子

ガヤトリ・スピヴァク コロキウム「ガヤトリ・スピヴァクとの対話」

2007.7.14お茶の水女子大学 翻訳:竹村 和子

ガヤトリ・チャクラヴァルティ・スピヴァク ●コロンビア大学、比較文学の教授、インドの東部ベンガル出身。ポストコロニアリズムとフェミニズムを結びつけ、脱構築とマルクス主義の接点を模索しつつ、精力的な批評活動を続けている。すでに1980年代半ばに出された「サバルタンは語るることができるか」という論文は大きな反響を呼んだ。お茶大では、少人数で突っ込んだ議論をするコロキウムの形式を望んで、実りある対話が可能になった。

言葉たち@お茶大⑤

戴錦華が語る、アジアが拓く可能性

アジアの歴史、つまりコロニアリズムとポストコロニアリズムの歴史、それからアジアがはらむ思想資源が、批判理論が陥っている思想の世界的閉塞状況を打開する潜在的な可能性のひとつであることは疑問の余地がないし、またフェミニストの理論と実践を切り開く可能性のひとつでもある。いわゆる「批判的知識人」にとって、新たにアジアを熟視するということは、冷戦、ポスト冷戦が編み上げた思想、文化の垣根を打破することを意味する。[中略] こうした文化政治の地形において、フェミニズムは、ひょっとするとアジアの対話のなかで頼りになる他者/自己の言語として、様々なヘゲモニーや男権のナショナリズムのプロジェクトを警戒、批判する有効な武器として、今までと違うアジアの視野やアジアの想像力を構築するかもしれない。

戴錦華 講演「ポスト冷戦期の文化政治とジェンダー」

2005.11.5お茶の水女子大学 翻訳:小林 さつき(当時の所属:お茶の水女子大学大学院)

戴錦華(ダイジンノ) ●北京大学教授。1980年代に孟悦と共に、中国に本格的なフェミニズム文学批評をもたらした。中国の商業化やメディア権力の問題に注目し、文革世代を批判する「第5世代、第6世代」の中国の監督を取り上げ、映画批評の新たな方向性を示している。東アジアにとって「ポスト冷戦期」とは、冷戦の終わりではなく、「萎縮し、変形し続ける現実」を意味すると捉え、間アジア的対話の可能性を模索している。

Gender 7

『テクノサイエンスとジェンダー』 Technoscience & Gender

● 館 かおる (生活科学部・ジェンダー研究センター)

目的

「科学」は「客観的知識」とであるという神話をジェンダー概念により問い直すこと、「技術」の「開発」による「製品」(モノ)を開発者、使用者、販売者の関係から明らかにすること、インターネット社会におけるジェンダーに関わる知の生成・展開を議論すること、本講義では、この3つの局面から「科学技術知」を考察します。

アピール

日本のジェンダー研究の中で、なかなか発展しないのは、「科学技術とジェンダー」の領域です。「科学技術」は、人間社会の階級、民族、性別といった次元を超えて(無関係)に発見される、客観的な知識であると見做されてきたからでしょう。しかしながら、科学という知識の発見、技術の開発の担い手は、人間であり、いままでは男性が主でした。歴史的に振り返ると、現在も使用されているリンネの生物分類概念や「生殖器」の構造や機能、性行為に関わる認識は、その社会が構築した概念であることが良くわかります。また産業革命後に著しく生産されるようになった「製品」には、技術開発者と使用者、販売者のジェンダー認識のズレが、大きく作用しています。例えば、生理用品や化粧品、避妊に関わる製品、マンモグラフィ等の検査機器、DNA

鑑定の市場化など、ジェンダー、セクシュアリティ研究でこそ、明らかになることも多いのです。さらにまた、私たちはインターネットによ



り「ウェブ世界」に生きることになりました。あなた方が、21世紀の人間社会、地球、宇宙の新たな知を産みだしていく「行為体」になることを願っています。

キーワード / Key Words

科学技術、知、客観性、ジェンダー、セクシュアリティ、行為体
Technoscience, Knowledge, Objectivity, Gender, Sexuality, Agency

Purpose

This class examines the influences of recent scientific developments (especially, web technologies) upon the gender system.

出典 ■ 『ジェンダーは科学を変える?』 工作舎(2002)
『Google革命の衝撃』 NHKエンタープライズ(2007)

Gender 9

『生殖テクノロジーとジェンダー』 Reproductive Technology & Gender

● 柘植 あづみ (生活科学部・ジェンダー研究センター)

目的

生殖テクノロジーとは生殖を管理するための技術です。体外受精、代理出産、避妊、中絶、胎児検査、男女の産み分けなど、さまざまです。この科目では、生殖テクノロジーがなげかける課題を通して、社会が女性あるいは男性の身体と生にどんな意味付けをしているのかについて考えていきます。

アピール

生殖テクノロジーという特殊な技術のように思われますが、それは人が生きる営みと直接にかかわるものです。妊娠するかしないか、妊娠したけれども産めない／産みたくなるときにはどうするか、子どもが欲しいのにできないときはどうするか、妊娠中の胎児に重い病気や障害があることがわかっ



たらどうするのか、女児であることを理由に中絶される社会をどう考えるか、人工子宮と代理出産はどう違うか、クローン技術で病気を治すのはよくてクローン技術で人をつくるのはなぜいけないとされているのか、、、そんなSFのような話題についてあなたがいかに考えているのかを整理し、分析していくことで、私たちが当たり前だと思っている社会の見えていなかった側面が見えてきます。そこから、身体、性、生にどんな社会的意味づけがなされ、そこで私たちはいかに生きていけるのか／生きていきたいのかを考えてみましょう。

キーワード / Key Words

生殖テクノロジー、ジェンダー、身体、生、価値、社会的意味
new reproductive technology, gender, body, life, value, social meaning

Purpose

We consider the social meaning of the human body and life through the issues of new reproductive technologies.

出典 ■ 『妊娠』 洛北出版(2009)



『テクノロジーとジェンダー』 Technology & Gender

高橋 さきの(生活科学部・ジェンダー研究センター)

目的

本演習では、科学技術に着目することで見えてくるジェンダーのさまざまな側面について検討します。明治の近代産業のたちあがりから現代の先端技術まで、技術と「からだ」のインタフェースの具体的瞬間をとらえて吟味し、「性差」概念が労働過程を介して変容してきた様子についても考えます。

アピール

「テクノロジーが見えると社会が見える」×「ジェンダーが見えると社会が見える」という掛け算のアプローチへようこそ。本演習では、ジェンダーと技術が密接に関わりながら作用している現場を具体的に検討します。

まず、近代工業が立ち上がってきた経緯を、『富岡日誌』や『女工哀史』など、技術者自らが筆をとった文献を講読しながら学び、そうした労働の現場を活写したオーラル・ビジュアルストーリーの仕事(図参照)を、みなさんに紹介していただきます。重工業についても検討します。



さらに、戦後、メディカル・テクノロジーが形成される過程でジェンダー概念が提出され、家電や授乳技術の一般化を背景として今日的ジェンダー概念が形成された経緯、その後ジェンダーが、性をめぐる森羅万象を包摂する概念へと発展してきた過程を扱います。

また、参与観察として、ウェブ上の各SNSでのジェンダー・ターゲティングの様子なども報告してもらおうと思います。重工業の時代とはまた異なった性差観が形成されている様子がわかるでしょう。

複数の立ち位置を自由に往き来しながら、各立ち位置から見える光景を弁別しつつ摺り合わせるスキルをぜひ身につけてください。

キーワード / Key Words

ジェンダー・セクシュアリティ、労働、テクノロジー、オーラルヒストリー、工場法、ジェンダー・ターゲティング

gender-sexuality, labor, technology, oral history, factory law, gender targeting

Purpose

Various gender-related phenomena in the techno-science from the “factory law period” to the contemporary web society are explored in order to understand the relation between technology, labor, sexuality-gender, and body.

出典 ■『炭坑美人』築地書館(2000)
『ちいさな労働者』あすなる書房(1996)
Light and Air, U of North Carolina P(1998)

言葉たち@お茶大⑥

テクノロジーとジェンダーの出会い

フェミニズムはこれまで長い間、私たちと技術の関係はどういうものなのか、また技術は女性の生活や人生にどのような影響を及ぼすのか、といったことについて、互いに矛盾する二つの立場のあいだで揺れ動いてきました。[中略]悲観的な宿命論の立場とユートピア的な楽観論のあいだで、つまり、技術なんて大



嫌いという立場と、技術マニアというような立場で揺れ動いてきたわけです。[中略]ジェンダーをめぐるさまざまな権力関係が社会で作用するうえで、技術はどのような役割を果たしているのでしょうか。技術の人工物や文化が、ジェンダー分業やジェンダーの不平等をかたちづくる過程、逆に、ジェンダー分業やジェンダー不平

等によって人工物や文化がかたちづかれる過程について、私たちは社会科学からどのようなことを学ぶことができるのでしょうか。

ジュディ・ワイスマン「ジェンダーとテクノサイエンス」

2006.10.3お茶の水女子大学 翻訳:高橋 さきの

ジュディ・ワイスマン ●オーストラリア国立大学教授。1990年代から、テクノロジーと社会に関わるジェンダー分析の先駆的研究を行ってきた。とくに、Feminism Confront Technologyは、この分野の研究の嚆矢として注目を集めた。テクノロジーの変化と工場やオフィスなど労働の場所や形態の変容と生活時間、交通機関との関係、家電製品の普及と家事労働の低減による男女の関係やアイデンティティについて取り上げてきたが、近年では、サイバースペースとジェンダーの問題に大きな関心を寄せている。

言葉たち@お茶大⑦

E・K・セジウィック、日本で語る

このことを最後に強調して終えることを選んだのは、もちろん、エイズ感染がアジアの多くの国を席卷し始めるにつれ、エイズ感染が、比較的新しい、そしてすでに深刻化している段階にきたからです。現時点で緊急の課題であると思われるのは、この病気についての理解を、またこの病気が組み込まれている社会的/心理的母体についての理解を、助けてくれるような概念道具をいつでも利用可能な状態で揃えておくことです。もちろん、世界規模で拡大しているこの伝染病は、それと折り合いをつけるためにアメリカ人が考察した理論のもろさを、限界がありアメリカ中心のであるというかたちで情け容なく暴くことになるかもしれませんが。わたしがここで心から望んでいるのは、日本および他のアジアの思想家たちが、より完全な、より効果的な叡智を出し合い、その叡智を、西洋にいるわたしたち思想家が共有するのを認めていただけることなのです。

イブ・K・セジウィック 講演「クィア理論をととして考える」

2000.10.14お茶の水女子大学 翻訳:大橋 洋一(東京大学)



イブ・K・セジウィック ●ニューヨーク市立大学(CUNY)大学院センター 元教授、英文学専攻(2009.4.12没)。ジュディス・バトラーとともに、1990年代以降のジェンダー研究、クィア理論を先導してきた。彼女が理論化したホモソーシャル性の概念は、文学研究を超えて、広く影響を与えている。病を押して初来日し、お茶の水女子大学での講演が、唯一の来日公演となった。



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
Tel. 03-5978-5846 Fax. 03-5978-5845

あなたが、
変わろう

あなたから、
変えよう

ジェンダー系